専門基礎分野　人体の構造と機能

科目名	単位数	開講期
解剖生理学Ⅵ	1単位15時間	1年次後期

＜目　　的＞
これまでに学んだ、生活機能別の解剖生理を統合して、生活行動としての現れ方を理解することで、健康状態に合わせた回復への支援と日々の生活を安楽にするための基礎的能力を養う。

＜目　　標＞
1．生活行動をとおして、統一体としての人間を理解する
2．正常な人体の機能・構造について理解する
3．安全安楽な生活行動を支える看護技術の原理原則は、解剖生理の知識と関連していることを理解する
4．自己の健康な身体と日常生活に関心が持てる
5．生活過程を整える上で要となる“いのちを守る”“日々の生活を安楽にする”“その人を尊重する”の看護の視点と関連づけることができる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．生活行動をとおして、統一体としての人間を理解する（演習）	14	〔学習の視点〕 『解剖生理学Ⅰ～Ⅴ』を統合し、自己の健康な身体と生活行動を結びつけて学ぶ（実験・データ収集）。さらに、基礎看護学での日常生活援助の根拠（原理原則）と照らして考える。 1．学習課題 1）息をし、血液を廻らす働き 2）食べて、排泄する働き 3）お風呂にはいって身支度する働き 4）生活をつくり、日常生活を支える土台と移動を担う働き 5）生命の連続性を維持する働き 2．学習の進め方 1）ゼミナール方式で進める 2）個人ワーク－ＧＷ－発表－事後レポート ＊詳細は演習要項参照	前野 しのぶ

項目	時間数	方法
ガイダンス	2	・学習の進め方について ・テーマ選出 ・グループ編成 ・タイムスケジュール
個人ワーク		・調べ学習をする ・自己の身体を使って、実験・調査を行う
ＧＷ	7	・学習計画の立案 ・ＤＶＤ学習 ・グループワークで理解を深める
発表	6	・授業を行う
事後レポート		・評価表の行動目標に沿って、学習したものをまとめる

評　価	解剖生理演習（30％）　レポート課題（70％）を総合評価する

教科書	・系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔１〕解剖生理学 坂 井　建 雄　他　（医学書院） ・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・人体の構造と機能　第４版　エレイン Ｎ．マリーブ　（医学書院）
参考書	

専門基礎分野　健康支援と社会保障制度

科目名	単位数	開講期
関係法規	1単位 15 時間	3年次前期

＜設定理由＞
　看護師は人々の健康を守る専門職の一つであり、医師の指示がなくても患者の療養上の世話を行うことができる職種である。また、医療の高度化に伴い医療機器の精密化、複雑さなども絡み、看護職が関係している医療事故は、ヒヤリハットを含めると日常的に問題がある。したがって、行政・刑事・民事の三側面から問われる立場にある。
　そこで、看護師が関係する法の変遷、法規の側面から看護活動を捉え、法的責任と役割を学習し、看護師としての倫理観の形成を養う。

＜目　　的＞
　看護を行う上で必要となる法令とその根拠を学び、看護師の役割と法的責任についての理解を深め、対象への統合的な支援に結びつけるための基礎とする。

＜目　　標＞
　1．社会の変化に応じて、法律や制度が変化していることを理解する
　2．保健師助産師看護師法を学び、看護職の法的責任と役割を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．法規の概念	8	1．法の構成と厚生行政のしくみ 2．看護法 　1）目的・定義・免許 　2）看護の専門性と法的責任 　3）看護業務における責任 3．医事法 　1）医療法 　2）医療を支える法 4．薬務法 5．社会基盤整備と労働法	森　　朋子
2．看護職と関係法規	6	1．看護関係法令 2．看護師等の人材確保の促進に関する法律 3．医療サービスの供給体制と医療事故	

評　価	筆記試験　1時間
教科書	・系統看護学講座 専門基礎分野　健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令 森 山　幹 夫　他　（医学書院） ・社会保障入門　社会保障入門編集委員会　（中央法規）
参考書	・看護六法　看護行政研究会　（新日本法規出版）

専門分野Ⅰ　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
看護学原論Ⅱ	1単位30時間	1年次前期～後期

＜目　　的＞

主な看護理論家たちが著した看護理論の概要を学び、理論適応の範囲と限界を知り、実践場面での活用のイメージができるように深める。そして、ナイチンゲールが示した看護師に必要な考え方をもとに、看護場面で対象の危機状況に接する際に求められる役割やその際に生じる葛藤など、倫理的課題解決に向けた行動の基準や原則を学び、専門職業人としての意識を高める。また看護の機能と役割を支えるしくみや保健医療福祉の連携、看護の対象を取り巻く多職種の役割と看護師に求められる役割を学び、看護に対する理解を深める。

＜目　　標＞

1．ナイチンゲールの看護論と比較して、看護理論と実践・各種理論の適応の範囲を知る
2．看護の専門職業人として果たすべき責務を学習し、看護倫理の基礎的な考え方を理解する
3．保健医療福祉チームの協働における看護師に期待する役割や課題を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．看護理論総説	13	1．看護理論とは 1）看護理論の定義 2）看護理論を使う意義 3）看護理論のレベル 4）看護理論の枠組み（主要概念） 2．看護理論家たちの歴史的な流れ 1）ナイチンゲールからアメリカの主要な看護理論家（バージニア･ヘンダーソン、ドロセア･E･オレム、マーサ･ロジャーズ、ジョイス･トラベルビー、シスター･カリスタ･ロイ、ヒルデガード･E･ペプロー、アイダ･ジーン･オーランド、アーネスティン･ウィーデンバック他）までを学習する。 2）演習 （1）理論材料、影響を受けた人物や理論、看護理論の骨格に書かれている事。中心概念などを明らかにする。＜個人ワーク－GW－発表－事後レポート＞ （2）ナイチンゲール看護論との理論レベルの比較	森　　朋子
2．看護倫理序説	14	1．看護職と倫理 1）看護倫理を学ぶ意義 2）職業倫理としての看護倫理 「看護者の倫理綱領」とは 3）倫理的事例を通して考える 4）看護倫理と患者の権利擁護 5）演習	田中　和子

		（１）実習体験を「看護者の倫理綱領（15 条)」に沿って比較検討し、臨床場面での看護学生としての姿勢・態度と結びつけて考えられるように取り組み、自己課題を明確にする。 ＜個人ワーク－ＧＷ－発表－事後レポート＞	
３．看護活動と看護師	２	１．看護の機能と活動の場における特徴 ２．地域の保健医療活動と医療施設の連携 ３．看護活動の実践場所の特徴と期待される役割 ４．保健医療チームと看護 ５．保健医療福祉活動が直面する課題	
評　価	筆記試験　１時間（60％）　レポート課題（40％）を総合評価する。		
教科書	・看護覚え書－看護であること看護でないこと－ フロレンス・ナイチンゲール　（現代社） ・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・看護学テキストＮＩＣＥ　基礎看護学　看護理論 筒 井 真優美　（南江堂） ・看護学テキストＮＩＣＥ　基礎看護学　看護倫理 小 西 恵美子　（南江堂） ・よくわかる看護者の倫理綱領　東京医科大学看護専門学校　（照林社） ・看護者の基本的責務　手 島　 恵　（日本看護協会出版会） ・ナーシング・グラフィカ　看護の統合と実践②　医療安全 松 下 由美子　他　（メディカ出版）		
参考書	・新看護体系　看護学全書　専門分野Ｉ　基礎看護学①　看護学概論 宮 脇 美保子　他　（メヂカルフレンド社）		

専門分野Ⅰ　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
看護場面に共通する技術Ⅰ	1単位30時間	1年次前期～後期

＜目　　的＞

看護師には、対象の実体と認識への働きかけをつうじて、その人の持てる力を最大限に働かせ、生活過程をつくりだす看護を、計画的に実践することが求められる。その時に用いられる看護技術には、「実体に働きかける技術」「認識そのものに働きかける技術」「看護過程を展開する技術」がある。実際の場面では、この3種類の技術を組み合わせて活用することになる。そこで、その中でも共通して使われる技術を取り上げ学習する。

コミュニケーションは、基礎分野の『コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ』を土台に、看護の目的をもったコミュニケーションへ発展させる。記録・報告では、より良い看護につなげるために、看護師としての責任について意識できるようにする。安全・安楽では、これから学ぶ看護技術全般における危険や苦痛について学習し、援助の看護の視点となるようにする。

＜目　　標＞

1．看護におけるコミュニケーションの意義・目的について理解する
2．演習を通して対象の認識に働きかけるコミュニケーション技術について理解する
3．看護技術全般における安全・安楽について学び看護の視点を理解する
4．看護における記録・報告の意義・目的・方法を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．コミュニケーション	19	1．看護におけるコミュニケーションとは 1）看護におけるコミュニケーションの意義・目的 2）看護におけるコミュニケーション技術 （1）コミュニケーションの過程的構造（認識―表現） （2）観念的追体験とは （3）コミュニケーション技術の目標行動 ①対象の頭の中を浮き彫りにする ②伝達内容の像を対象の頭の中につくる ③より良い状態の像を創り上げそれに向かう意思を高める 3）演習 （1）事例 「60歳代、女性、発熱と嘔気、倦怠感のある患者。環境整備中のコミュニケーション場面。」 （2）技術項目：ロールプレイ 4）演習 （1）事例 「『基礎看護学実習Ⅱ』の受け持ち患者とのコミュニケーション場面」 （2）技術項目：プロセスレコード	臺坂　恵子

２．安全・安楽	6	１．安全・安楽とは 　１）安全 　　（１）医療・看護における安全の意義 　　（２）医療・看護実践における危険要因 　２）安楽 　　（１）看護における安楽の意義 　　（２）安楽な体位の保持 　　（３）ボディメカニクスの基本 　　（４）安楽への援助 　３）演習 　　（１）技術項目 　　　①安楽な体位 　　　②ボディメカニクス	古谷　恵
３．記録・報告	4	１．看護をする上で必要な記録・報告とは 　１）記録について 　　（１）記録の意義 　　（２）医療における記録の種類と管理 　　（３）看護記録に関する法的規定 　　（４）看護記録の種類と目的 　　（５）看護記録上の原則と留意点 　　（６）看護記録の記載方法 　２）報告について 　　（１）報告の意義 　　（２）報告の種類と目的 　　（３）適切な報告の条件 　３）演習 　　（１）技術項目 　　　①記録 　　　②報告	中井　史世

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・科学的看護論　薄井　坦子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔２〕基礎看護技術Ⅰ 　有田　清子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔３〕基礎看護技術Ⅱ 　有田　清子　他　（医学書院） ・看護学テキストＮＩＣＥ　基礎看護学　基礎看護技術 　香春　知永　他　（南江堂）
参考書	

専門分野Ⅰ　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
看護場面に共通する技術Ⅱ	1単位30時間	1年次前期～後期

＜目　　的＞

看護師は、対象の実体と認識への働きかけをつうじて、その人の持てる力を最大限に働かせ、生活過程をつくりだすように、計画的に実践することが求められる。その時に用いられる看護技術には、「実体に働きかける技術」「認識そのものに働きかける技術」「看護過程展開技術」がある。実際の場面ではこの３種類の技術を組み合わせて活用することになる。その中でも共通して使われる技術を取り上げ学習する。

フィジカルアセスメントでは、対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整え回復過程を支援するために、身体的側面について根拠にもとづき系統的に健康状態を把握する“いのちを守る”技術と考え方について学ぶ。

＜目　　標＞

１．フィジカルアセスメントの意義・目的について理解する
２．事例演習を通して系統別フィジカルアセスメントの知識・思考を使って健康状態を判断できる
３．技術演習を通して系統別フィジカルイグザミネーションの技術を習得する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．フィジカルアセスメントとは	8	１．フィジカルアセスメントとは １）ヘルスアセスメントの中のフィジカルアセスメントとは ２）フィジカルアセスメントの意義・目的 ３）フィジカルアセスメントに必要な技術 ４）ケアに繋げるフィジカルアセスメントの進め方 （１）視診・触診・聴診・打診 （２）全体状態・全体印象の把握 （３）バイタルサインの観察 （４）計測 ５）演習 （１）技術項目 ①バイタルサイン測定 ※フィジカルイグザミネーションについては、単元２にて演習する	三 浦 美穂子
２．系統別フィジカルアセスメント	21	１．生命を維持する働きのフィジカルアセスメント １）呼吸器系・循環器系フィジカルアセスメント ２）演習 （１）事例 「76歳、男性、心疾患の患者。咳嗽、夜間の呼吸苦と不眠にて外来受診する。」 （２）技術項目 ①呼吸器系・循環器系フィジカルアセスメント	三 浦 美穂子 中 井 　史 世

		２．人間を統合する脳の働きのフィジカルアセスメント １）感覚器系・運動系・神経系フィジカルアセスメント ２）演習 （１）事例 「57 歳、女性、変形性膝関節症で手術後３日の患者。車椅子で病棟内を活動するように医師より指示があった。しかし、患者は自発的に動こうとしない。」 （２）技術項目 ①感覚器系・運動系・神経系フィジカルアセスメント ３．食物を消化吸収する働きのフィジカルアセスメント １）消化器系フィジカルアセスメント ２）演習 （１）事例 「62 歳、女性、上腹部に強い痛みを訴えて救急搬送された患者。」 （２）技術項目 ①消化器系フィジカルアセスメント	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔２〕基礎看護技術Ⅰ 有 田　清 子　他　（医学書院） ・看護学テキストＮＩＣＥ　基礎看護学　基礎看護技術 香 春　知 永　他　（南江堂）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野Ⅰ　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
生活過程を整える技術Ⅰ	1単位30時間	1年次前期～後期

<table><tr><td>＜目　　的＞
　看護は、対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることにある。その生活過程は、「生命を維持発展する過程」「生活習慣を獲得し発展させる過程」「社会関係を維持発展させる過程」で支えられており、人間の一生は24時間の連続でつくられる。
　その中でも、「生活習慣を獲得し発展させる過程」について取り上げ学習する。
　人間の健康にとっての「食」および「排泄」の概念をおさえ、食と排泄のバランスを整え“日々の生活を安楽”にするための看護の視点や援助技術を習得する。
＜目　　標＞
　１．人間の健康にとっての食・排泄の意義を理解する
　２．食・排泄の看護の視点を理解する
　３．食事・排泄の基本技術を習得する</td></tr></table>

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．食事	10	１．食と排泄のバランスを整えていくための看護 〔学習の視点〕 　生命体としての人間の身体や代謝、摂取→自己化→排出、認識が食を決定すること、食に反映する価値観の多様性などについて、「ナースが視る病気」を活用して食が人間の健康にとっての土台であることを学習する。 　１）食事の意義・目的 　２）看護の視点 　　（１）食のアセスメント 　　　①食の必要条件 　　　②アセスメントに必要な知識 　　　③観察視点（科学的看護論の観察の視点を活用する） 　３）食事の基本技術 　　（１）食事観察技術 　　（２）食事介助技術 　　（３）食を促す技術 　　（４）経管栄養法 　４）演習 　　（１）事例 　　　「76歳、女性、変形性膝関節症で手術後２日の患者。治療により、ベッド上で日常生活を送っている。手術後から食欲不振で、食事摂取量が減っており、自分で食事を食べようとしない。」 　　（２）技術項目 　　　①食事介助技術 　　　　＊アセスメント、援助計画の立案を含む 　５）演習	古谷　　恵

		（１）技術項目 ①経管栄養法	
２．排泄	19	１．食と排泄のバランスを整えていくための看護 １）排泄の意義・目的 ２）看護の視点 （１）排泄のアセスメント ①排泄の必要条件 ②アセスメントに必要な知識 ③観察視点（科学的看護論の観察の視点を活用する） ３）排泄の基本技術 （１）排泄の観察技術 （２）排泄介助技術 （３）排泄を促す技術 ４）患者の状態に応じた排泄の看護技術 （１）失禁している患者のケア （２）膀胱留置カテーテル （３）浣腸・摘便 ５）演習 （１）事例 「76 歳、女性、変形性膝関節症で手術後２日の患者。治療により日常生活が制限されており、排便は車椅子を使用しトイレ、排尿はベッド上にて行っている。」 （２）技術項目 ①排泄介助技術 ＊アセスメント、援助計画の立案を含む ６）演習 （１）技術項目 ①膀胱留置カテーテル ②浣腸・摘便	前 野 しのぶ

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　専門分野Ｉ　基礎看護学〔３〕基礎看護技術Ⅱ 有 田　清 子　他　（医学書院） ・看護学テキストＮＩＣＥ　基礎看護学　基礎看護技術 香 春　知 永　他　（南江堂）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野Ⅰ　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
生活過程を整える技術Ⅱ	1単位30時間	1年次前期～後期

＜目　　的＞

看護は、対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることにある。その生活過程は、「生命を維持発展する過程」「生活習慣を獲得し発展させる過程」「社会関係を維持発展させる過程」で支えられており、人間の一生は24時間の連続でつくられている。

その中でも、「生活習慣を獲得し発展させる過程」について取り上げ学習する。

人間の健康にとっての「運動」および「休息」の概念をおさえ、運動と休息のバランスを整え“日々の生活を安楽”にするための看護の視点と援助技術を習得する。また、人間の健康にとっての「清潔」および「衣」の概念をおさえ、個人の習慣を尊重し、より良い清潔を保ち“日々の生活を安楽”にするための看護の視点と援助技術を習得する。

＜目　　標＞

1．人間の健康にとっての運動・休息・清潔・衣の意義を理解する
2．運動・休息・清潔・衣の看護の視点を理解する
3．運動・休息・清潔・衣の基本技術を習得する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．運動・休息	6	1．運動と休息のバランスを整えていくための看護 〔学習の視点〕 人間にとって運動と休息により統一体としての調和を保っていることを「ナースが視る病気」を活用して運動と休息が人間の健康にとっての土台であることを学習する。 1）運動・休息の意義・目的 2）看護の視点 （1）運動・休息のアセスメント ①運動・休息の必要条件 ②アセスメントに必要な知識 ③観察視点（科学的看護論の観察の視点を活用する） 3）運動・休息の基本技術 （1）観察技術 （2）体位・移動介助技術 （3）睡眠・休息を促す技術 4）演習 （1）事例 「73歳、女性、腹部の手術後3日の患者。日常生活に制限はないが、創痛により動こうとせず、一日をほぼベッド上で過ごしている。」 （2）技術項目 ①良い姿勢の保持 ②体位変換 ③歩行介助（歩行器を含む） ④車椅子の移乗、移送 ⑤ストレッチャーの移乗、移送	中村　和美

		＊アセスメント、援助計画の立案を含む	
2. 清潔 ・衣生活	23	1． より良い清潔が保てるようにする看護 1）清潔・衣の意義・目的 2）看護の視点 （1）清潔・衣のアセスメント ①清潔・衣の必要条件 ②アセスメントに必要な知識 ③観察視点（科学的看護論の観察の視点を活用する） 3）清潔・衣の基本技術 （1）観察技術 （2）清潔・衣の援助技術 4）演習 （1）事例 「76 歳、女性、変形性膝関節症で手術後２日の患者。治療により日常生活が制限されている。」 （2）技術項目 ①整容、口腔ケア ②全身清拭、寝衣交換、陰部洗浄 ③手浴、足浴、洗髪 ＊アセスメント、援助計画の立案を含む ＊輸液ライン等のある患者の寝衣交換についてはデモンストレーションを行う 5）演習 （1）技術項目 ①入浴介助 ＊ストレッチャー入浴のデモンストレーションを行う	三 浦 美穂子 中 村 和 美

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔３〕基礎看護技術Ⅱ 有 田　清 子　他　（医学書院） ・看護学テキストＮＩＣＥ　基礎看護学　基礎看護技術 香 春　知 永　他　（南江堂）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野Ⅰ　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
生活過程を整える技術Ⅲ	1単位30時間	1年次前期～後期

＜目　　的＞

看護は、対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることにある。その生活過程は、「生命を維持発展する過程」「生活習慣を獲得し発展させる過程」「社会関係を維持発展させる過程」で支えられており、人間の一生は24時間の連続でつくられている。

その中でも、「社会関係を維持発展させる過程」について取り上げ学習する。

人間の健康にとっての「環境」「労働」「性」の概念をおさえ、“その人を尊重した”生活を整えられるように、看護の視点、援助技術を習得する。また、『看護場面に共通する技術Ⅰ』（単元「安全・安楽」）での学習を土台に感染予防の基本技術について習得する。

＜目　　標＞

１．人間の健康にとっての環境・労働・性・感染予防の意義を理解する
２．環境・労働・性・感染予防の看護の視点を理解する
３．環境・感染予防の基本技術を習得する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．環境	13	１．良い生活環境を整える看護 １）生活環境を整える意義・目的 ２）看護の視点 （１）生活環境のアセスメント ①生活環境の必要条件 ②アセスメントに必要な知識 ③観察視点（科学的看護論の観察の視点を活用する） ３）環境調整の基本技術 （１）観察技術 （２）環境調整技術 ４）演習 （１）事例 「60歳代、女性、発熱と嘔気、倦怠感のある患者。」 （２）技術項目 ①病床環境の整備 ②ベッドメーキング ③リネン交換 ＊アセスメント、援助計画の立案を含む	中井　史世
２．労働・性	4	１．その人を尊重し、その人らしい生活を整える看護 １）労働・性の意義・目的 ２）看護の視点 （１）労働・性のアセスメント ①労働・性の必要条件 ②アセスメントに必要な知識 ③観察視点（科学的看護論の観察の視点を活用する）	中村　和美

		（２）看護としての支援	
３．感染予防	12	１．感染を予防する看護 １）感染予防の意義・目的 ２）看護の視点 （１）感染徴候のアセスメント ①アセスメントに必要な知識 ②観察視点（科学的看護論の観察の視点を活用する） ３）感染予防の基本技術 （１）観察技術 （２）感染予防技術 ４）演習 （１）技術項目 ①手洗い ②無菌操作 ５）演習 （１）事例 「48 歳、男性、感染性胃腸炎（ノロウイルス）の患者。患者が病室で嘔吐した場面。」 （２）技術項目 ①個人防御用具の着脱 ②感染性廃棄物の取り扱い ＊アセスメント、援助計画の立案を含む	佐 藤　直 美

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔３〕基礎看護技術Ⅱ 有 田　清 子　他　（医学書院） ・看護学テキストＮＩＣＥ　基礎看護学　基礎看護技術 香 春　知 永　他　（南江堂）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野Ⅰ　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
診療過程における看護技術Ⅰ	1単位15時間	1年次後期

＜目　　的＞
ナイチンゲールの病気観は、「日々の生活の中で衰えたり毒されたりするプロセスが気づかずして進行しており、それらと自然の回復力との力関係の結果として病気が現れてくる」と定義している。医師は、健康現象を分析し、その因果関係を追及しながら健康レベルの向上のために診断・治療を行う。医療従事者は対象の健康を守るという共通の目的意識に支えられた専門職種であり、各職種はその中で独自の役割を担っている。そのため、看護師は、対象が安全・安楽で安心して医療・看護が受けられるように、対象の健康障害の種類・健康の段階によってどのような診察・検査・治療が行われるのかを理解する必要がある。また、他の職種と協働して診察・検査・治療が、効果的に進められるようにすることが求められる。

そこで、診療過程における看護師の責任と役割と、診察および検査に伴う看護について学ぶ。

＜目　　標＞
1．診療過程における看護師の責任と役割を理解する
2．診察の介助を安全・安楽に実施するための目的・方法（原理原則）を理解する
3．検査の介助を安全・安楽・正確に実施するための目的と方法（原理原則）を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．診療過程における看護師の責任と役割	2	1．診療過程における看護師の責任と役割 1）診療過程とは何か 2）患者の心理と患者役割 3）看護師の責任と役割	中井　史世
2．診察に伴う看護	2	1．診察の介助 1）診察の目的と種類 2）診察方法・留意点 3）看護の実際	
3．検査に伴う看護	10	1．検査の介助 1）検査の目的と種類 （1）生体検査 （2）検体検査 2）検査の方法・留意点 3）看護の実際 4）演習 （1）事例 「60歳代、女性、発熱と嘔気、倦怠感のある患者。医師より検尿と採血の指示を受け、実施する場面。」 （2）技術項目 ①検尿 ②採血 ＊アセスメント、援助計画の立案を含む	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　専門分野Ｉ　基礎看護学〔３〕基礎看護技術Ⅱ 有 田　清 子　他　（医学書院） ・看護学テキストＮＩＣＥ　基礎看護学　基礎看護技術 香 春　知 永　他　（南江堂）
参考書	

専門分野Ⅰ　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
診療過程における看護技術Ⅱ	1単位30時間	1年次後期

＜目　　的＞
『診療過程における看護技術Ⅰ』で学習した診療過程における看護師の責任と役割のもとに、対象が安全・安楽で安心して治療が受けられるように、治療・処置に伴う看護について学ぶ。

＜目　　標＞
1．呼吸・循環を整える技術を安全・安楽・正確に実施するための目的・方法（原理原則）を理解する
2．与薬の技術を安全・安楽・正確に実施するための目的・方法（原理原則）を理解する
3．創傷管理の技術を安全・安楽・正確に実施するための目的・方法（原理原則）を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．治療・処置に伴う看護	8 21	1．治療・処置の介助・補助 1）治療・処置の目的と種類 2）治療・処置の方法・留意点 3）看護の実際 （1）呼吸・循環を整える看護 （2）与薬・輸血の看護 （3）創傷管理の看護 （4）洗浄・穿刺の看護 4）演習 （1）事例 「76歳、男性、心疾患の患者。咳嗽、夜間の呼吸苦と不眠にて外来受診する。検査にて、入院治療をすることとなった。」 （2）技術項目 ①酸素吸入（酸素ボンベの操作と酸素量の計算） ②気道内加湿、排痰ケア、体位ドレナージ、吸引 ③末梢循環促進（温罨法・冷罨法） ＊アセスメント、援助計画の立案を含む ＊マッサージは講義で学習する 5）演習 （1）事例 「76歳、男性、心疾患の患者。咳嗽、夜間の呼吸苦と不眠にて外来受診する。検査にて、入院治療をすることとなった。」 （2）技術項目： ①与薬法（経口与薬・直腸内与薬・外用薬の貼付）	三浦　美穂子 前野　しのぶ 中村　和美

<table>
<tr><td></td><td></td><td>②注射法（筋肉・静脈内）
③輸液法（輸液管理・滴下調整）
＊アセスメント、援助計画の立案を含む
＊皮下注射は技術演習を行う
６）演習
（１）事例
「57 歳、女性、変形性膝関節症で手術後７日の患者。医師が、手術創の抜鈎をする場面。」
（２）技術項目
①創傷処置
②包帯法
＊アセスメント、援助計画の立案を含む</td><td></td></tr>
<tr><td>評　価</td><td colspan="3">筆記試験　１時間</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="3">・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会）
・系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔３〕基礎看護技術Ⅱ
有 田　清 子　他　（医学書院）
・看護学テキストＮＩＣＥ　基礎看護学　基礎看護技術
香 春　知 永　他　（南江堂）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="3">・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社）
・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）</td></tr>
</table>

専門分野Ⅰ　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
臨床看護技術	１単位 15 時間	２年次前期

＜目　　的＞

看護師には、対象の実体と認識への働きかけをつうじて、その人の持てる力を最大限に働かせ、生活過程をつくりだす看護を、計画的に実践することが求められる。その時に用いられる看護技術には、「実体に働きかける技術」「認識そのものに働きかける技術」「看護過程展開技術」がある。実際の場面ではこの３種類の技術を組み合わせて活用することになる。対象に合わせて、どの看護技術をどのように用いるのかは、臨床での看護師の判断に掛かっている。

そこで、看護師の臨床判断の考え方と看護技術の適応のさせ方について学ぶ。

＜目　　標＞

１．看護場面における看護師の臨床判断の考え方がわかる

２．対象の状況に応じた看護技術の適応の方法がわかる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．臨床看護とは	2	１．臨床看護とは １）臨床看護とは ２）看護師の役割 （１）看護師の業務の範囲 ①看護活動の場（領域） ②発達段階　③健康段階 ④健康障害　⑤対象の単位 ⑥生活機能	臺 坂　恵 子
２．看護師の臨床判断プロセス	4	１．看護師の臨床判断プロセス １）臨床判断とは （１）臨床判断の位置づけ （２）問題解決のプロセス （３）臨床判断の考え方 ①気づき　②解釈 ③反応　④省察	
３．臨床判断と看護介入に必要な情報と視点	4	１．臨床判断と看護介入に必要な情報と視点 １）発達段階と看護 ２）健康障害の種類 ３）健康の段階 （急性期・回復期・慢性期・終末期） ４）生活過程の特徴	
４．臨床看護の実際	4	１．演習 １）目的 「臨床判断の考え方と対象の状態・状況に応じた看護技術の適応方法を学ぶ」 ２）事例 「72 歳、女性、脳梗塞、リハビリテーション期にある患者。10：00 の状態観察の結果から、対象の状態をアセスメントし、そ	

		の日の看護を計画・実践しようとしている場面。」 ３）演習方法 （１）事例紹介（『看護過程展開の技術』と同一の事例）－ＧＷ－ロールプレイ－デブリーフィング－事後レポート ４）ＧＷの視点 （１）気づき、解釈 （２）反応（援助計画の立案） ５）ロールプレイ－デブリーフィング （１）援助計画の実施（看護技術の適応） （２）省察	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・ナーシング・グラフィカ　基礎看護学⑤　臨床看護総論 任　　和 子　他　（メディカ出版）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護過程に沿った対象看護　髙 木　永 子　他　（学研メディカル秀潤社） ・疾患別　看護過程の展開　第５版　山 口 瑞穂子　他 （学研メディカル秀潤社）

専門分野Ⅰ　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
看護過程展開の技術	1単位 30時間	1年次後期

＜目　　的＞

看護師には、対象の実体と認識への働きかけをつうじて、その人の持てる力を最大限に働かせ、生活過程をつくりだす看護を、計画的に実践することが求められる。その時に用いられる看護技術には、「実体に働きかける技術」「認識そのものに働きかける技術」「看護過程展開技術」がある。実際の場面では、この３種類の技術を組み合わせて活用することになる。

そこで、「看護過程展開技術」を取り上げ、科学的根拠にもとづいた看護を展開するための思考過程を学ぶ。

＜目　　標＞

１．看護過程の必要性と構成要素が理解できる

２．問題解決的アプローチによって看護を実践するための思考過程がわかる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．看護過程とは	4	１．看護過程とは １）看護過程の定義 ２）看護過程の必要性 ３）看護過程の構成要素	森　朋子
2．科学的看護論での看護過程演習	18	１．科学的看護論での看護過程演習 １）事例 「72歳、女性、脳梗塞、慢性期」 ２）演習方法 （１）事例紹介（『臨床看護技術』と同一の事例）－個人ワーク－ＧＷ－発表－まとめ－事後レポート ３）ＧＷの視点 （１）第１の関心 ①全体像モデル ②立体像モデル ③対象特性 ④回復のための必要条件 ⑤日常生活の規制と生活体の反応 （２）第２の関心 ①日常生活の規制と生活体の反応（観念的追体験：立場の変換） ②プロセスレコード （３）第３の関心 ①看護上の問題点を探る ②目標の立案 ③計画の具体化 ④評価	臺坂　恵子

３．看護過程のまとめ	7	１．看護過程のまとめ １）演習 （１）目的 『基礎看護学実習Ⅱ』の受け持ち患者事例を用いて、看護過程のプロセスを実際から学ぶ。 （２）事例 『基礎看護学実習Ⅱ』の受け持ち患者事例 （３）演習方法 ①個人ワーク－実習担当教員の指導－ＧＷ－発表－まとめ－事後レポート （４）個人学習 ①『基礎看護学実習Ⅱ』の受け持ち患者事例を用いて、３過程 12 項目の日常生活の規制と生活体の反応の事実を分析・判断し、看護問題・看護計画を立案する。 （５）ＧＷの視点 ①科学的看護論を用いて省察する（三重の関心）	

評　価	筆記試験　１時間（50％）　演習（50％）を総合評価する
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔２〕基礎看護技術Ⅰ 有 田　清 子　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護過程に沿った対象看護　髙 木　永 子　他　（学研メディカル秀潤社） ・疾患別　看護過程の展開　第５版 山 口　瑞穂子　他　（学研メディカル秀潤社）

専門分野Ⅱ　成人看護学

科目名	単位数	開講期
成人看護学Ⅰ	1単位15時間	1年次後期

＜目　　的＞

成人期にある対象とその家族の生命力をアセスメント（生きる力・生活する力・人と関わる力・支える力）し、生命力の消耗を最小にするよう患者の持てる力を働かせて生活過程を整えられる能力を養う。

そこで、成人期の発達段階・発達課題・生活する力を理解し、健康の保持・増進・疾病の予防、健康障害から回復するための成人看護の基盤となる概念を学ぶ。

＜目　　標＞

1．成人期の特徴（身体面・心理面・社会面・生活面）を理解する
2．成人期における健康問題を生活と関連させて理解する
3．成人期の健康の保持・増進・疾病予防のための看護活動を理解する
4．成人期にある対象を看護するための基本的な考え方を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．成人期の特徴	4	1．ライフサイクルからみた成人期の特徴（第2の人生） 1）ライフサイクルにおける人間のつくられ方と各時期の生活する力（持てる力） 2）成人期の発達段階の特徴 （1）身体面　（2）心理面 （3）社会面 （4）生活状況の特徴（家族形態と機能・生活様式・社会状況の変化） 3）成人期の発達課題	古谷　恵
2．成人の生活と健康問題	4	1．成人の生活と健康問題 1）健康指標にみる成人の特徴 （1）人口動態　（2）生と死の動向 （3）受療状況など 2）生活の中にみる成人の特徴 （1）生活習慣病（食習慣・運動習慣・喫煙・飲酒） （2）自殺・職業性疾病・作業関連疾患 （3）心の病（ストレスに関連する健康課題）	
3．成人の保健・医療・福祉	4	1．成人の保健・医療・福祉 〔学習の視点〕 社会政策の歴史的背景と関連させて学ぶ。また、保健活動と法的根拠を関連させて学ぶ。 1）ヘルスプロモーション 2）保健・医療・福祉に関わる施策の概要 3）保健に関わる対策 4）医療に関わる対策 5）福祉に関わる対策	

		６）保健・医療・福祉の連携	
４．成人期にある対象を看護するための基本的な考え方	２	１．成人期の生活する力（持てる力）を働かせる支援 １）人間関係の構築 ２）患者・家族の意思決定を支える ３）健康の危機状況への適応 ４）成人期における健康学習支援	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔１〕成人看護学総論 小 松　浩 子　他　（医学書院）
参考書	

専門分野Ⅱ　成人看護学

科目名	単位数	開講期
成人看護学Ⅱ	１単位 30 時間	２年次前期～後期

＜目　　的＞

成人期にある対象とその家族の生命力をアセスメント（生きる力・生活する力・人と関わる力・支える力）し、生命力の消耗を最小にするよう患者の持てる力を働かせて生活過程を整えられる能力を養う。

そこで、成人期にある対象が、健康障害から回復するための看護や、臨終を迎える患者の看護など、健康の段階に応じた看護について学ぶ。さらに、さまざまな健康の段階にある対象の生命力の良い状態をつくりだすために、「リハビリテーション看護」・「がん患者の看護」・「緩和ケア」について学ぶ。

＜目　　標＞

１．さまざまな健康の段階にある対象と家族の特徴（身体面・心理面・社会面・生活面）を理解する
２．さまざまな健康の段階にある対象と家族への看護を展開するための知識を理解する
３．健康の段階で用いられる看護技術を対象に応じて安全・安楽に実施する
４．成人期にある患者の継続看護の特徴がわかる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．急性期の看護	11	１．急性期にある対象の理解と看護の特徴 １）急性期にある対象の特徴 （１）急激な健康破たんをきたす原因・要因 ①外傷・事故・中毒 ②急性疾患　③侵襲的治療 ④慢性病の急性増悪 （２）急激な健康破たんをきたした人の特徴 ２）急性期における看護の基本 （１）危機にある人々への支援 ①危機モデル（フィンク）の活用 ②クリティカルケア看護（ショックへの処置） （２）合併症の予防 （３）回復を促進するための看護 ３）周手術期看護 （１）術前看護 （２）術中看護 （３）術後看護（ＩＣＵにおける看護） （４）ボディイメージの受容への支援 ４）急性期にある対象の家族の特徴と看護 ５）退院調整（継続看護） ２．演習 １）事例 「壮年期、直腸がん、急性期の患者の術後直後（手術後１日目）の看護」	古谷　恵

		２）技術項目 （１）術後の観察（モニタリング・フィジカルアセスメントを含む） （２）ドレーン管理（酸素・胃チューブ・排液ドレーンなど）	
２．慢性期の看護	６	１．慢性期にある対象の理解と看護の特徴 １）慢性期にある対象の特徴 （１）慢性期疾患の特徴 （２）慢性期疾患患者の生活 ①中範囲理論：病みの軌跡 ２）慢性期における看護の基本 （１）治療の選択と意思決定への支援 （２）セルフマネジメントの支援 ①セルフケア能力と行動のアセスメント ②セルフケアの工夫への支援 ・学習支援とは：アンドラゴジーの活用 ・自己効力感（バンデューラ）の活用 ・エンパワーメントの活用 ３）慢性期にある対象の家族の特徴と看護 ４）退院調整と多職種連携（継続看護） ２．演習 １）事例 「壮年期、糖尿病、慢性期の患者の退院指導」 ２）技術項目 （１）指導技術 ①中範囲理論を活用した学習支援	
３．リハビリテーション看護	２	１．リハビリテーションが必要な対象の理解と看護の特徴 〔学習の視点〕 『リハビリテーション概論』での学習を土台に、健康の段階に合わせたリハビリテーション看護について学ぶ。 １）リハビリテーションにおける看護師の役割 （１）生活機能障害のアセスメント・ＱＯＬの評価 （２）障害に対する受容と適応への支援 （３）多職種連携と社会資源の活用（継続看護） （４）患者の社会参加への支援 （５）リハビリテーションが必要な対象の家族の特徴と看護 ２）経過別リハビリテーション看護の実際	

		（１）急性期　（２）回復期 （３）維持期　（４）終末期	
４．がん患者の看護	２	１．がん患者の理解と看護の特徴 １）がん患者の抱える苦痛 ２）がん患者の生活上の困難 ３）がん患者の治療と看護の概要 ４）がん患者の社会参加への支援（継続看護） ５）がん患者の家族の特徴と看護	森　　朋子
５．緩和ケア	４	１．緩和ケアを必要とする対象の理解と看護の特徴 １）緩和ケアとは （１）全人的苦痛（トータルペイン） ①身体的苦痛・精神的苦痛 ②社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛 （２）緩和ケアチームとチーム医療 （３）倫理的課題（ＳＯＬとＱＯＬ） ２）緩和ケアの対象者 ３）看護介入の特徴 （１）日常生活を整える看護介入 （２）医療の効果を高める看護介入 （３）患者の潜在的な力を強める看護介入 ①代替・補完療法とは ４）緩和ケアを必要とする家族の特徴と看護 ２．演習 １）事例 「臨床での事例を用いて実際に代替・補完療法の一部を実施する」 ２）技術項目 （１）タッチング （２）マッサージ （３）罨法 （４）リラクゼーション （５）イメージ法など	
６．終末期の看護	４	１．終末期にある対象の理解と看護の特徴 １）終末期にある対象の理解と看護の特徴 （１）終末期にある対象の特徴 ①終末期医療の現状 ②延命医療から緩和ケアへ（継続看護） ③全人的苦痛（トータルペイン）	

		２）終末期における看護の基本 （１）エンド・オブ・ライフ・ケアの概念 ①症状のアセスメント ②全人的苦痛のアセスメント ③苦痛緩和と意思決定への支援 ④生きる意味の探求への援助 ⑤死の準備教育 ⑥多職種連携（チームアプローチ） ⑦悲嘆に対するアセスメントとケア（グリーフケア） （２）終末期にある患者の家族の特徴と看護	
評　価	筆記試験　１時間		
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔１〕成人看護学総論 小 松　浩 子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　別巻　緩和ケア 恒 藤　　暁　他　（医学書院） ・系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護 道 又　元 裕　他　（医学書院）		
参考書	・系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護 武 田　宜 子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　別巻　がん看護学 小 松　浩 子　他　（医学書院）		

専門分野Ⅱ　老年看護学

科目名	単位数	開講期
老年看護学Ⅰ	１単位 30 時間	２年次前期

＜目　　的＞

老年期にある対象の加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴と、高齢者を支える保健医療福祉の動向を学び、高齢者の健康と生活について理解する。そして、老年看護の倫理と看護の基本について学ぶ。この学びから、高齢者が生きがいをもち、その人らしく健康的な生活を送ることを支援するために必要な看護の視点と姿勢を養う。また、成人期にある学生が、老年看護の対象である高齢者を、知りたい・知ろうとする関心につなげる。

＜目　　標＞

１．老年期にある対象の加齢による変化と生活の特徴を理解する
２．高齢者に関する保健医療福祉の現状と課題を理解する
３．老年看護の特性（機能と役割）を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．老年看護の対象である高齢者の特徴	14	１．老年看護の対象 ２．高齢者の特徴 〔学習の視点〕 『発達心理学』で学んだ老年期の発達課題について復習して授業に臨むこと。 １）老年期の発達と変化 （１）ライフサイクルにおける老年期（第３の人生）の人間のつくられ方と生活する力（持てる力） （２）発達課題 ①ペックによる老年期の心理的危機 （３）加齢と老化 ①加齢に伴う身体的変化 ア．恒常性と４つ力 イ．高齢者の疾患の特徴 ②加齢に伴う心理的・社会的変化 ア．知能・人格・創造性 イ．役割と社会活動の変化 ウ．住宅環境・就労、雇用・収入、生計 ２）老いへの適応 （１）喪失体験と獲得体験 （２）サクセスフルエイジング （３）スピリチュアルティ （４）余暇活動と生きがい ３．演習 １）目的 「高齢者疑似体験」 ２）事例 「80 代、女性、２階建ての一戸建てに住所。主な健康障害はない。」 ３）演習方法	三　浦　美穂子

		（１）事例紹介－ロールプレイ－ＧＷ－発表－まとめ－事後レポート （２）ＧＷの視点 ①日常生活における身体的な不自由さと危険について意見交換をする ②それに伴う心理・社会的側面への影響を考える ③①②の結果を２－１）老年期の発達と変化、２－２）老いへの適応の学習と関連づける ４．高齢者の生活 １）高齢者のライフストリー（生活史） ２）演習 （１）目的 「前期・後期高齢者の時代背景を知る」 （２）演習方法 ①個人ワーク－ＧＷ－発表－まとめ－事後レポート ②ＧＷの視点 ア．生きてきた時代背景 イ．生活リズムと生活習慣、生活様式 ウ．アイと自分たちの背景を比較して、高齢者に対する印象について話し合う ３）高齢者のその人らしい生活の継続 （１）治療・介護の必要度と生活の場 （２）多様な生活の場とリロケーション （３）ノーマライゼーション	
２．高齢者を支える保健医療福祉の動向	7	１．高齢社会の現状 １）統計的特徴 ２）高齢化の要因 ３）高齢社会の伴う課題 ４）高齢者と家族の変化 ２．高齢者を支える保健医療福祉制度 １）医療保険制度 ２）介護保険制度 ３）地域包括ケアシステム	
３．老年看護の特性	8	１．老年看護の倫理 １）高齢者差別の防止（エイジズム） ２）高齢者虐待の防止 ３）高齢者の権利擁護 （１）安全確保と身体拘束 （２）認知症高齢者の権利擁護 （３）高齢者の意思決定への支援 （４）セーフティマネジメント	

<table>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td>　　　　①寛ぎ・安心・安全
２．老年看護活動の特性
　１）意思決定
　２）理論・概念の活用
　３）健康の保持増進と予防
　４）高齢者のリスクマネジメント
　　　（医療安全・救命救急・災害看護）
　５）家族との協働</td><td></td></tr>
<tr><td>評　価</td><td colspan="4">筆記試験　１時間</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="4">・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学
　　　　　　　　　北 川　公 子　他　（医学書院）
・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論
　　　　　　　　　鳥 羽　研 二　他　（医学書院）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="4">・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社）
・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）
・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会）</td></tr>
</table>

専門分野Ⅱ　老年看護学

科目名	単位数	開講期
老年看護学Ⅳ	1単位15時間	2年次前期～後期

＜目　　的＞

老年期に多くみられる症状・健康障害の特徴と看護、検査・治療を受ける高齢者の看護を学ぶ。

そこで、高齢者とその家族の生命力（生きる力・生活する力・人とかかわる力・支える力）をアセスメントし、さまざまな健康障害をもつ高齢者とその家族が、持てる力を働かせ生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

1．老年期に多くみられる症状・健康障害の特徴と看護を理解する
2．検査・治療・処置を受ける高齢者の看護を理解する
3．健康障害をもつ高齢者と家族の看護過程の展開方法を、理解する（急性期～回復期）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．老年期に多くみられる症状・健康障害の特徴と看護	5	1．老年期に多くみられる症状と看護 1）発熱　2）痛み 3）掻痒（かゆみ）　4）脱水 5）嘔吐　6）浮腫 7）倦怠感 2．老年期に多くみられる健康障害の特徴と看護 1）認知症と看護 （1）加齢による病態と要因 （2）環境と行動・心理症状 （3）認知機能の評価 （4）予防治療、療法的アプローチ （5）コミュニケーション方法、療養環境の調整 （6）家族への支援とサポートシステム 2）大腿骨頸部骨折等の運動器系の看護 3）前立腺肥大症等の泌尿器系の看護 4）難聴・白内障等の感覚器系の看護 3．廃用症候群について 1）廃用症候群とは 2）廃用症候群のアセスメント 3）廃用症候群の予防	三 浦 美穂子
2．検査・治療を受ける高齢者の看護	2	1．検査を受ける高齢者の看護 1）安全・安楽な検査の実施 2）加齢による検査結果への影響 2．薬物治療を受ける高齢者の看護 1）加齢に伴う薬物動態の変化とリスクマネジメント	

３．看護過程の 展開	7	１．紙上事例演習 １）事例 「70 歳代、大腿骨頸部骨折、術後、急性期～回復期」 ２）演習方法 （１）科学的看護論のモデルを活用 （２）個人ワーク－ＧＷ－発表－まとめ－事後レポート	

評　価	筆記試験　１時間（50%）　看護過程演習（50%）を総合評価する
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 北 川　公 子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論 鳥 羽　研 二　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社） ・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会）

専門分野Ⅱ　小児看護学

科目名	単位数	開講期
小児看護学Ⅰ	１単位 30 時間	２年次前期

＜目　　的＞
小児看護の概念および小児を取り巻く環境の変化を理解し、小児看護の対象と看護の特性について学ぶ。また、小児とその家族が健全に成長発達を促進するための看護と健康増進のための看護を学ぶ。
この学びから、「人間が、よく生まれ、よく育まれ、よく働かせる」ようにつくられていることを意識し、どの時代であっても小児とその家族が健やかな成長発達と健康の増進が図れるように、対象の持てる力を働かせ生活過程を整えられる能力を養う。
＜目　　標＞
１．小児看護の対象と看護の特性を理解する
２．小児を取り巻く環境と保健の動向（法・施策）について理解する
３．小児の成長発達過程と発達課題を理解する
４．小児各期の日常生活援助と生活指導について理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．小児看護の対象と看護の特性	2	〔学習の視点〕 「人間が、よく生まれ、よく育まれ、よく働かせる」ようにつくられていることについて、意識して学ぶ。 １．ライフサイクルにおける小児期の人間のつくられ方と生活する力（持てる力） ２．小児看護の基盤となる概念 １）小児とは ２）小児看護の対象とは ３）小児看護の目標と役割 ４）小児看護の場と職種 ５）小児看護における倫理（子どもの権利） ６）小児看護における課題	佐藤　典加
２．小児を取り巻く環境と保健の動向	6	１．小児看護を取り巻く環境と保健の動向 １）小児諸統計からみた子どもと家族の健康問題 （１）人口動態と出生率 （２）出生と母親の年齢・世帯構造 （３）子どもの死亡（周産期死亡・乳児死亡など） ２）小児看護に関する法律と制度 （１）児童福祉法　（２）母子保健対策 （３）学校保健対策（４）医療費支援 （５）予防接種　（６）特別支援養育 （７）臓器移植法など ３）小児看護の対象を取り巻く環境 （１）家族構造と機能の変化 （２）虐待・育児放棄 （３）健康問題	

		（４）いじめ・不登校 （５）発達障害児に対する理解 （６）小児医療の現状と課題	
３．小児の各期における成長発達と看護	8	１．小児の成長発達と看護 １）小児の成長発達の原則と影響因子 （１）成長発達の概念・原則・影響因子 （２）発達課題と発達理論 ２）小児の成長発達のアセスメント （１）形態的成長・機能的発達の評価 （２）身体発育の評価 （３）発達検査 （４）心理・社会的発達の評価 （５）療育環境 ３）小児期における成長発達の特徴と看護 （１）神経系　（２）運動系 （３）感覚器系　（４）循環器系 （５）免疫系　（６）呼吸器系 （７）消化器系　（８）代謝系 （９）泌尿器系　（10）体温調節 （11）大泉門・小泉門・生歯 （12）認知・思考・コミュニケーション・言語 （13）情緒・アタッチメント・分離不安 （14）社会性・道徳性	
４．成長発達に応じた生活の支援	13	１．成長発達に応じた生活の支援 １）新生児期 （１）栄養と授乳　（２）事故防止 （３）親子関係の確立 （４）家族の育児技術の獲得 （５）コミュニケーション ２）乳児期 （１）栄養と離乳　（２）運動と遊び （３）感染予防と予防接種 （４）事故防止 （５）親子関係の確立 （６）家族の育児技術の獲得 （７）コミュニケーション ３）幼児期 （１）食生活と食育（２）運動と遊び （３）生活リズムの確立 （４）基本的生活習慣の確立 （５）感染予防と予防接種 （６）事故防止と安全教育 （７）親子関係の確立 （８）社会化 （９）育児技術の獲得 （10）コミュニケーション	

			４）学童期 （１）肥満や食習慣の乱れ （２）う歯の予防　　（３）近視の予防 （４）スポーツ外傷の予防 （５）学校感染症の予防 （６）生活習慣病の予防 （７）学習と遊び （８）事故防止と安全教育 （９）セルフケアと保健教育 （10）食生活と食育 （11）仲間との関係や学校への適応 （12）コミュニケーション ５）思春期 （１）体格と体力　　（２）第二次性徴 （３）アイデンティティの確立 （４）情緒的変化と家族関係 （５）仲間との関係 （６）性意識の変化と逸脱行動 （７）異性への関心 （８）ライフスタイルと生活リズムの変化 （９）喫煙・飲酒の防止 （10）不登校の実体と支援 （11）いじめ・校内暴力の防止 （12）自殺の防止 （13）コミュニケーション ６）演習 （１）目的 「発達段階による生活の支援の違いについて学ぶ」 （２）演習方法 ①個人ワーク－ＧＷ－ロールプレイ－発表－まとめ－事後レポート （３）ＧＷの視点 ①栄養・事故防止・遊びと学習・コミュニケーションについて、発達段階による特徴を理解する ②健やかに成長をするための生活の支援について計画立案し実践する	
評　価	筆記試験　１時間			
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔１〕小児看護学概論 小児臨床看護総論　奈良間 美 保　他　（医学書院）			
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）			

専門分野Ⅱ　精神看護学

科目名	単位数	開講期
精神看護学Ⅰ	１単位 30 時間	２年次前期～後期

＜目　　的＞

人間の健康は 24 時間の生活の中で、心、体が相互に影響し合いながら一定の均衡を保っている。この均衡が乱れ人間に備わっている自然力（回復力）が小さくなると、心にも乱れをきたす。その乱れの（生命力を脅かす）要因は生活する場によって大きく影響を受けるため、社会関係が関連していることを理解することが重要である。そのために、人間の成り立っている要素を限なく取り入れたバイオ・サイコ・ソーシャルモデル（生物学的・心理学的・社会学的）の視点でトータルに理解することが求められる。

さらに、精神看護の対象はすべての発達段階にある人であり、その人の健康の段階に伴う心の問題、および精神障害者とその家族について理解するための知識を学習する。また、精神医療の歴史を概観する中で、精神障害者の人権とノーマライゼーションについて深く考えられるようにし、精神障害者の人権の尊重と精神看護を展開するうえでの看護師の役割および倫理的配慮についても学習する。

人間の心の発達と心の健康を理解し、発達課題と関連する心の健康上の課題、人々を取り巻く社会の価値規範やしくみが心の健康障害の顕在化と対応に及ぼす影響を学ぶ。また、精神保健福祉に関する制度、ライフサイクルと生活の場から精神保健を捉え、精神看護の役割と課題について学ぶ。

＜目　　標＞

１．ケアの対象者を理解するために、バイオ・サイコ・ソーシャルモデルを理解する
２．精神医療での人権尊重と精神看護の目的と看護師の基本的役割を理解する
３．ライフサイクルにおける精神の健康と社会関係の関連性を理解する
４．心の健康問題は、あらゆる場で起こりうる問題であることを理解する
５．精神障害者のこれまで置かれてきた歴史的・社会的背景を学習し、精神保健医療の動向について理解する
６．精神保健福祉の関連法規を学習し、今日の現状と課題について理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．精神看護活動	10	１．精神看護はどんな活動か １）対象者はどんな体験をしているのか ２）対象者をトータルに理解するには ―バイオ（生物学的）・サイコ（心理学的）・ソーシャルモデル（社会学的）を使って理解を深めよう― （１）バイオ・サイコ・ソーシャルモデルとは （２）バイオ・サイコ・ソーシャルな理解とは （３）バイオ・サイコ・ソーシャルな看護を可能にするには ２．看護師は何をするのか １）精神看護の目的、役割、機能 ２）対象者が自分の力を信じられる援助 ３）対象者の安全と安寧を守る ３．多職種との協働（チーム医療） １）精神科でのチーム医療の必要性 ２）チーム医療における各職種の役割	中村　和美

		（１）精神科医 （２）保健師 （３）精神保健福祉士 （４）作業療法士 （５）精神保健福祉相談員 （６）薬剤師 （７）栄養士 （８）ピアサポーター （９）臨床心理技術者（臨床心理士・公認心理師等） ３）病院・地域におけるチーム医療と看護 ４．人権を守るために ―精神看護における基本的人権と倫理的問題― １）とくに精神科医療で注意すべきこと （１）自己決定権の侵害 （２）身体の自由に対する権利の侵害 ①隔離　②身体拘束 ２）患者の権利と人間の尊厳	
２．ライフサイクルと精神保健	10	１．ライフサイクルから見た精神看護 １）周産期の精神の健康 ２）乳幼児期から学童期の精神の健康 ３）思春期と青年期の精神の健康 ４）成人期の精神の健康 ５）老年期の精神の健康 ２．精神看護の場と看護 １）リエゾン精神看護とは ２）リエゾン精神看護師の役割 ３）リエゾン精神看護の対象者 ４）リエゾン精神看護師の活動 ３．医療施設以外の精神看護 １）家庭（患者と家族の精神の健康） ２）学校（子どもと教職員の精神の健康） ３）職場（働く人の精神の健康） ４．災害時の地域における精神保健医療活動 １）災害時の精神保健医療活動 ２）災害時の精神保健に関する初期対応 ３）災害時の精神障害者への治療継続	
３．精神保健医療福祉の歴史と法制度	9	１．精神医療の歴史的変遷 １）世界における精神医療の歴史的変遷 ２）近年における治療法と法制度の発展 ３）日本における精神看護者の出現 ４）最近の精神保健の動向 ２．精神保健関連法規 １）精神保健福祉法 ２）障害者自立支援法から障害者総合支援法へ	

		3）障害者総合支援法 4）心身喪失者等医療観察法 5）児童虐待防止法 6）ＤＶ防止法 ３．精神保健医療福祉の現状と課題 1）長期入院患者の地域移行 2）長期入院を生み出さない急性期ケアの確立 3）地域ケアの充実 4）身体合併症ケアの充実 ４．心の健康に関する普及啓発 1）こころのバリアフリー宣言 2）健康日本 21(第二次） 3）新健康フロンティア戦略	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・看護学テキストＮＩＣＥ　精神看護学　精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種のつながり　萱 間　真 美　他　（南江堂）
参考書	・精神看護学ノート　武 井　麻 子　（医学書院） ・精神看護学 精神保健　第４版　太 田　保 之　他　（医歯薬出版）

統合分野　在宅看護論

科目名	単位数	開講期
在宅看護論Ⅰ	1単位15時間	1年次後期

＜目　　的＞
　在宅看護の概念および地域特性と健康課題のつながりを理解し、自分も含め地域で生活するすべての人々は、社会情勢や生育環境、暮らしのありようから、個人の生活様式・生活習慣に影響を受けることを学ぶ。
　そこで、在宅看護の対象者を、地域で生活する人々と広くとらえ、変化する地域社会に目を向け、地域で生活しながら療養する人々とその家族の持てる力を働かせ、対象とその家族の生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞
1．社会情勢の変化にともない在宅看護が必要とされる背景から、在宅看護の対象と看護の特性を理解する
2．地域で生活する人々を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．在宅看護の対象と看護の特性	4	1．在宅看護の基盤となる概念 1）在宅看護の社会背景 （1）少子・超高齢社会 （2）疾病構造の変化 （3）健康や療養の考え方の多様化 2）在宅看護とは （1）療養者中心の医療・看護 （2）看護の倫理 （3）療養者の権利の保障 3）在宅看護の対象 （1）個人を対象とする看護 （2）集団を対象とする看護	佐藤　直美
2．看護の対象が生活する地域性（コミュニティ）について	10	1．在宅看護と生活支援 1）地域と生活の関連 2）生活と健康の関連 3）在宅ケアと在宅看護 （1）在宅ケアの目的・意義 （2）在宅看護が提供されるさまざまな生活の場 （3）在宅ケアチームにおける看護の役割 2．演習 1）目的 「看護の対象が生活する地域性（コミュニティ）について知る」 2）演習方法 個人ワーク－ＧＷ－地域リサーチ－ＧＷ－発表―まとめ一事後レポート 3）ＧＷの視点 （1）湯川地区の環境（世帯数、人口、施設など）歴史・文化について調べ	

		地域の特徴を考える （２）24 時間のライフサイクルとコミュニティとの関連 ①交通機関　②商業施設 ③病院　④施設 ⑤教育機関　⑥行政機関 ⑦住宅環境　⑧道路状況 （３）（１）と（２）より、健康な生活と地域性（コミュニティ）の関連について意見交換をする	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・ナーシング・グラフィカ　在宅看護論①　地域療養を支えるケア 臺　有 桂　他　（メディカ出版）
参考書	

統合分野　家族看護論

科目名	単位数	開講期
家族看護論	１単位　15 時間	３年前期

＜目　　的＞
個人の健康状態は、両親の健康状態や暮らし方やその地域の健康を守る社会的システムに影響される。また、24 時間の生活をとおして定まっていくため、個人の健康を守るために家族全体を看護の対象として捉える必要性がある。そして、対象の持てる力を働かせて、家族とともに対象がその人らしく生きるための看護について学ぶ。
そこで、家族社会学で学習した家族の動向、家族関係、家族理解の諸理論の知識を前提に、家族の健康の保持増進、健康問題を解決するための予防的・支持的・治療的な看護実践能力を養う。

＜目　　標＞
１．家族構成員の健康が家族全体に影響を及ぼすため、家族を一つの単位として看護する必要性を理解する
２．家族看護における看護の役割を理解する
３．家族が健康に生活するために必要な支援を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．家族看護の基礎	6	１．家族看護とは １）家族看護の定義 ２）家族看護の目的と看護の役割 ３）家族看護の発展と動向 ２．家族看護における対象理解 １）家族の発達段階 ２）家族システム ３）家族看護からみた家族 （１）ジェノグラム （２）エコマップ ４）看護の対象としての家族のとらえ方 （１）家族の機能・ライフステージと健康問題の特性 （２）家族の疾病による役割と生活の変化 ５）家族像の形成 （１）家族を理解する場・情報 （２）家族の多様性 ３．家族を取り巻く社会的・文化的背景 １）家族の動向 ２）家族と地域社会	森　　朋子
２．家族看護の実践	8	１．家族看護における看護の役割 １）家族看護における看護の特徴 （１）情報収集とアセスメントの方法 （２）家族アセスメントと介入 ２）健康問題に応じた家族への支援 （１）患者の背景としての家族アプローチ （２）１つのシステムとしてのアプロー	

<table>
<tr><td></td><td></td><td>チ
２．演習
１）目的
「対象とその家族が健康でその人らしい生活を送るための退院調整について考える」
２）事例
「80 歳、女性、アルツハイマー型認知症、高血圧」
３）演習方法
事例紹介－個人ワーク－ＧＷ－発表－まとめ－事後レポート
４）ＧＷの視点
（１）家族アセスメントと判断
（２）健康問題に応じた家族への支援
（３）（１）（２）の個人ワークをもとに、意見交換を行い家族支援の方法を考える</td><td></td></tr>
<tr><td>評　価</td><td colspan="3">筆記試験　１時間</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="3">・ＮＩＣＥ　家族看護学　19 の臨床場面と８つの実践例から考える
山 崎 あけみ　他　南江堂</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

統合分野　看護の統合と実践

科目名	単位数	開講期
看護実践と医療安全	１単位 30 時間	３年次前期

＜目　　的＞
　看護師は、医師の指示を受けて医療行為を行う機会が多い。数ある職業の中で、医療職ほどわずかな間違いで対象の傷害に直結する職業はない。そのため、看護師は、医療事故の当事者になる可能性が高く、医療システムの中に潜む危険因子を知り、臨床実践におけるさまざまな状況に対応できる看護実践力が必要となる。
　そこで、これまでに学んだ知識と技術を統合し、安全で安心できる倫理的な看護を提供するための思考・判断・行動の仕方について学ぶ。

＜目　　標＞
１．医療システムの中の危険要因を知り、事故防止のための基本的知識を理解する
２．医療安全における看護の役割と看護師としての責任について理解する
３．安全で安心な医療提供に必要な臨床判断の考え方を理解する
４．医療現場の実践を知り、多重課題への対処方法について理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．医療安全	14	１．医療安全の概念 ２．看護師の法的規定 ３．医療安全の取り組みと評価 ４．事故発生のメカニズム ５．リスクマネジメントのプロセス ６．主な医療事故とその予防策 ７．演習 １）演習方法 事例紹介－個人ワーク－ＧＷ－発表－まとめ－事後レポート ２）学習の視点 （１）医療事故のインシデント報告の要因と対策 （インシデントレポートの分析と活用） （２）危険予知トレーニング （ＫＹＴ基礎４ラウンド法）	三 浦 美穂子
２．臨床看護の実践	15	１．演習 １）目的 「複数患者への援助の実際と看護技術評価」 ２）演習方法 （１）事例紹介－ディスカッション－まとめ－事後レポート ３）学習の視点 （１）症状を呈する患者および日常生活援助を必要としている患者２名を事例設定する （２）グループで患者の状態・状況をアセスメントして安全・安楽の確保、	中 村　和 美

		自立度に合わせた援助の実施、援助の効率化を考え計画する （３）２名の患者への実施すべき援助の優先順位を踏まえ計画立案する （４）自己の看護技術の到達状況を評価し、課題を明確にする ４）技術項目 （１）①～⑥の診療の補助技術と日常生活援助技術とを組み合わせて実施する ①経鼻胃チューブの挿入・確認 ②グリセリン浣腸、摘便 ③体位ドレナージと口腔内・鼻腔内・気管内吸引 ④酸素ボンベの操作 ⑤導尿、膀胱留置カテーテルの挿入 ⑥注射法（静脈注射、点滴管理）輸液ポンプの操作	

評　価	筆記試験　１時間（40％）　医療安全演習・多重課題演習（60％）を総合評価する
教科書	・ナーシング・グラフィカ　看護の統合と実践②　医療安全 松　下 由美子　他　（メディカ出版）
参考書	

統合分野　看護の統合と実践

科目名	単位数	開講期
看護研究の実際	1単位 15 時間	3年次前期～後期

＜目　　的＞

『看護研究の基礎』で学習した看護研究に関する基礎知識をもとに、基本的な過程をたどりながら研究的な学習を進める。また研究計画書から発表までの一連の過程をとおして、看護とは何か、看護現象や援助のあり方、看護専門職としての役割について理解を深める。

＜目　　標＞

1．看護研究の基本的なステップにもとづいて、研究計画を立案することができる
2．看護研究計画書にもとづいて、研究活動を遂行することができる
3．他者の意見を取り入れ、自己の考えを表現し、グループとして学びを高め合うことができる
4．研究活動をとおして、看護に対する見方・考え方や看護専門職としての役割を洞察できる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．看護研究の実際	14	1．看護現象から研究課題へ 1）自己の研究課題の発見 2）研究テーマの絞り込み ※臨地実習を振り返り、探求したい看護実践を見いだし、研究の可能性を見極めて研究テーマを絞り込む。 2．研究課題の選定 3．研究計画書の作成 1）研究テーマの検討 2）目的の明確化 3）看護研究における倫理的配慮の指針を適応 4）指定の構成要素・内容を満たした計画書作成 ※担当教員の指導・助言を受けながら進める。 4．看護研究の実施 1）研究計画書にもとづき、その事実から論理を引き出す 2）論文作成	佐 藤　直 美

評　価	筆記試験 1 時間（20％）　ケーススタディプロセス（80％）を総合評価する
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・ナーシング・グラフィカ　基礎看護学④　看護研究 川 村 佐和子　他　（メディカ出版） ・看護学生のためのレポートの書き方教室　江 原　勝 幸　（照林社）
参考書	